

日経新聞「交遊抄」原稿

山梨大学工学部長 伊藤 洋

「O Freunde. nicht diese Töne!」(おゝ友よ, こんな音ではない). これはベートーベンの第九 S 終楽章, バリトン独唱の出だしである. 「オトキチ」と呼ばれるオーディオファンにとって, コンサートホールの感動を自分のものにする夢は果てしない. 苦心してチューニングしたオーディオシステムで, いきなり「こんな音ではない!」と唄われると挑戦意欲が猛然と湧こうというものである. 畏友(株)京三製作所元社長(相談役)の大塚信一郎さんといえば, 人生の全隙間時間を原音再生の夢に捧げたオトキチの一人として夙に有名である. オトキチ同士として 25 年の交友を温めてきた.

杉並のお宅には専用リスニングルームがあり, オーディオ機器がところ狭しと据え付けられている. すべて自分で集めチューニングしたもの. 完成度は抜群だが, 気温や湿度はもちろん, 音源の録音特性によっても適不適があったりするから, これで決まりということはない. 最高度に完成したと思ってもなおまだ進歩の余地があると思えば, 更に挑戦する.

この国では, 人工音の無政府的氾濫によってもはや原音追求などという文化はとうの昔に消滅した. 秋の虫のすだく声, 楽器の余韻, こんなものを聞いていると頭が痛くなるという若者が出現しているという. 音響機器市場が衰弱した最大の原因は, これだと筆者は確信している.

大塚さんの会社は, 交通機関の制御システムメーカーである. 会社の最高の商品価値は交通体系のハーモニーである. 大塚さんのハーモニーに挑戦する飽くなき意欲と技術屋魂は, そのままこの国の交通安全につながっていたのである.

大塚信一郎さん関係データ

〒168-0063 東京都杉並区和泉 3-25-18 電話 03-3321-0194

早稲田大学理工学部電気工学科卒 京三製作所信号部長・社長・会長を歴任 現相談役.

筆者とは, 情報ネットワーク技術について交友が始まったが, 実際は音楽会を聴きにいったり, 音響システムについて論じ合ったり, モーツァルトファン同士として意気投合したり....